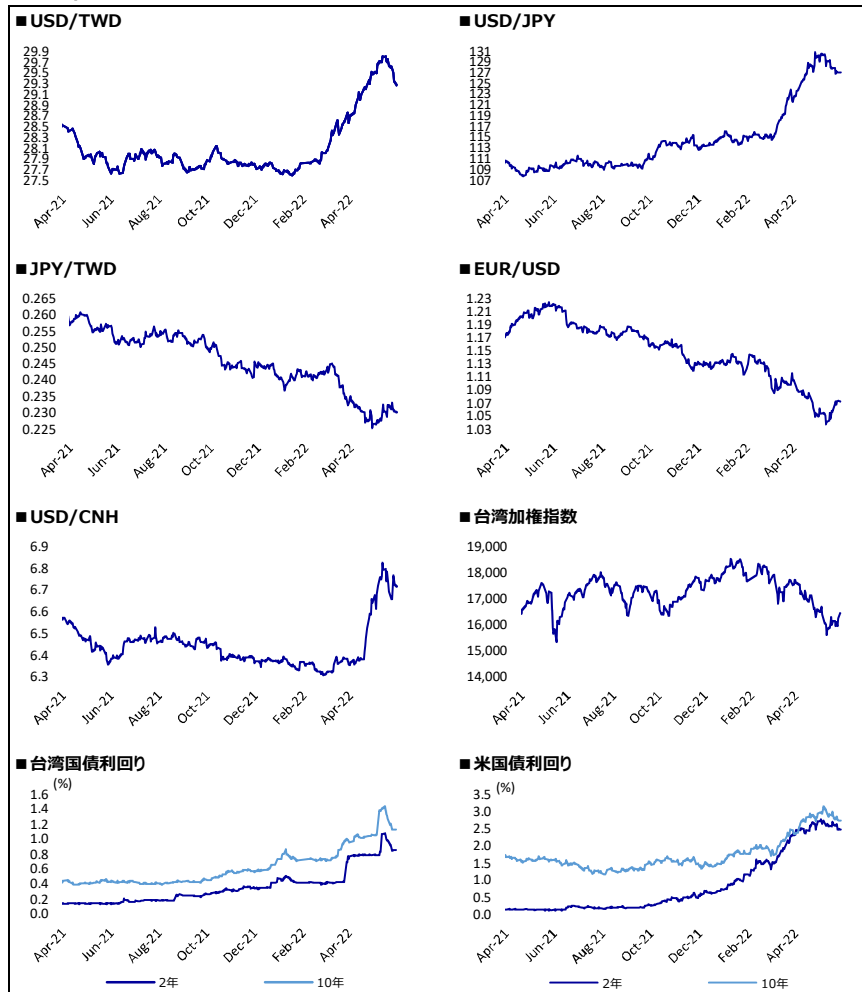


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落。週初5/23は29.650でオープン後、海外からの資金流入や人民元の上昇につられて、台湾ドルは買われ29.62付近まで下落。5/24は前日の流れから29.58付近まで下落したが、台湾株が売られ台湾加権指数が16,000ポイントを下回ると、29.62付近に戻した。5/25は台湾株が反発すると台湾ドル買いが優勢となり、じりじりと下落すると、輸出企業のドル売りも散見され、29.52付近まで下落。5/26も外国人投資家の資金流入と輸出企業のドル売りでドル台湾ドルは29.5を割り込み、5/27には一時29.326まで下落。最終的に先週比1.0%ドル安台湾ドル高の29.350で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は77.3億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は下落。週初5/23は127.94でオープン後、前週の米国景気後退への懸念からのドル売りにより127円台前半まで下落したが、バイデン大統領の対中関税の引き下げを検討との発言を受け、リスク回避の動きが一服すると127円台後半まで戻した。5/24は一時128.08まで上昇したものの、ラガルドECB総裁からのタカ派発言を受けてユーロが買われ、また、米金利が低下したこともあり、ドルが売られると127円割れに。米5月製造業、サービス業PMIが予想を下回り、米4月新築住宅販売件も予想以上に悪化するとドル売りが強まり、一時126.37まで下落した。5/25は5・10日の実需勢のドル買いもあり、127円台半ばまで上昇。FOMC議事録では、予想の範囲内の内容で影響は限定的であった。5/26は黒田日銀総裁による日銀の出口戦略を連想させる発言に円買いが強まり126円台半ばまで下落。しかし、米小売企業的好調な決算を受けて米株が大幅上昇すると127円台半ばまで戻した。5/27は月末の実需のフローや経済指標で売り買いが交錯したが、米国の連休を前に127円ちょうどを挟んでレンジでの推移となった。最終的に先週比0.6%ドル安円高の127.09で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：29.000-29.400
リスクオフの動きが落ち着いている一方、米長期金利の上昇も以前よりは落ち着いてきている。今週は月末も控えており、台湾ドルが買われやすい時合いが続くであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：126.00-129.50
景気後退懸念が一旦は落ち着いているが、今週は、重要な米国経済指標の発表が相次ぐため、引き続き、米国景気動向を確認しながらの推移が続くであろう。

今週の予定

5/30 (MON)	米国市場休場
5/31 (TUE)	米5月消費者信頼感指数
6/1 (WED)	米5月ADP雇用統計、米5月ISM製造業景気指数
6/2 (THU)	米4月製造業受注
6/3 (FRI)	米5月雇用統計、米5月ISM非製造業景気指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。